

島田市都市計画マスタープラン 地域別タウンミーティング（大長地域） 議 事 要 旨

- ◆日 時：令和元年8月30日（水）19：00～21：00
- ◆場 所：北部ふれあいセンター コミュニティホール
- ◆出席者：地元住民：32名
市役所職員： 戦略推進課長
 建設課長補佐
 農林課長 他1名
 生活安心課長 他1名
 教育総務課長
 市民協働課長
事務局： 都市政策課長 他2名

◆会議次第

1. 開会
2. 会長あいさつ
3. 議題
 - (1) 都市計画マスタープランの資料説明
 - (2) 意見交換
 - (3) グループワーク
～わたしの考える“大長地域の未来”～
4. 連絡事項
 - ・今後の予定
5. 閉会

◆配布資料

- ・資料1 島田市都市計画マスタープラン 全体構想原案【概要版】
- ・資料2 第7章 地域別構想（大長地域）

■議事要旨

(1) 都市計画マスタープランの資料説明

(事務局)

(説明)

(2) 意見交換

(市民)

デマンド運行とはなにか。

(生活安心課長)

予約をしていただき、乗合で目的地まで行く交通システムのことである。

(市民)

コンパクトなまちづくりということだが、「コンパクト」ということは、島田市内で医療も何もかも出来て、外に出なくて良い、ということなのか。コンパクトについて具体的に説明して欲しい。

(事務局)

島田市の中で、日常生活に必要な商業施設等が整備された利便性のある居住地があり、ある程度住み続けられる地域を今後も維持するためには、ある程度人口密度が必要になる。人口が増えているときは住む場所も広がっていたが、これから人口が減るときに今のままの都市構造では、専門用語でスポンジ化と言うが、人口密度が低くなってしまう。人口密度が低くなると利便性施設の維持が困難になるため、ある程度拠点を作り居住区等を誘導し人口密度を維持することで、現在の生活利便性を維持していくことを目指すのが「コンパクトなまちづくり」ということである。よく誤解されるが、コンパクトシティというと、島田駅前にすべての施設を集約して郊外の地域は切り捨てると言われるが、そういうことではない。中心地域や六合、初倉、金谷地域、それ以外にも大長地域や伊久身、大津、川根地域にも集落拠点を設けて人口密度を維持することで、周辺の集落も維持できると考えている。

(市民)

都市計画の大枠の中で、まちづくりをどう考えているのか聞きたい。例えば、中心となる東京があり枝葉があるという考え方もあり、中心は周りに補完される。野菜は近郊の埼玉県などで生産している。そういうことから周辺地域のまちづくりが行われたと思うし、地域の特色にもなったと思う。島田市も大井川や伝統的な産業があり、川根地域も含めて島田市となっており、これらも含めて考える必要がある。集約化を考えると、言葉では集落地を大事にすると掲げていても、結果的にはまとまっていかなるを得ない。川根地域は温泉があり、自宅の前も観光バスが多く走っている。県に要請しているとはいうが、神座から川口あたりを大型の観光バスが通って良いのかと思っている。金谷も大井川鐵道沿線に賑わい拠点できるが、一体的にできるかどうか。また、新空港ができて、物流のダイナミズムができると思うが、どうなるのかと思っているのか。

(事務局)

ご指摘いただいたとおり、日本全国で高度経済成長期に土地区画整理事業や市街地再開発を行い、ミニ東京を目指していた時代もありました。島田市でも、それぞれの地域で良いところがあって、今回の都市計画マスタープラン策定に関して、焼津市や藤枝市の方にWEB調査でアンケートを実施しています。島田市のイメージについては、観光資源があって観光が立派、自然環境が豊か、という魅力があるという回答が得られている。すべての資源が中心市街地にあるわけではなく、大長地域・伊久身地域・大津地域・川根地域にも多くの良いところ、資源があるので、これらを活かしたまちづくりをしていかなければならないと考えています。それらを踏まえ、基本理念で地域資源を活かしながら都市機能を誘導し、公共交通でネットワークすることで、一体のまちづくりをしていくことを考えています。

(市民)

大長・伊久身地域は、自然豊かで観光があると言われている、自然だけでは食っていけない。観光はあっても、観光客がお金を落とす手段を作っていない。来て見て良いな、と思うだけ。本当はもっと便利な場所に行きたいと思っても、他所へ行くことができない状態にあるのではないかと思う。人口が減少して、学校が統合し児童の数が減少することが目に見えている。自然や環境が良くても生活する手段がないなら、他所から来て住もうとは思わないと思う。たまにきて観光するには素晴らしい場所だと思う。環境とか生活しやすいというだけでは、人口は増えないし、働く手段がないとまちの方へ出ていくと思う。

(事務局)

大長地域の中だけで働く場所を確保し生活するのは、土地利用でも大半が山と農地の中なので難しいと思う。市全体の中で企業を誘致して働く場所を確保していくという施策を考えている。例えば、金谷インターチェンジの農用地を除外して大きく都市型土地利用にして、働く場所としての企業を誘致しようとしている。働く場所は、市全体で確保するというような取り組みを考えています。

(市民)

6つの地域に分けて地域構想を作っているが、地域に分けた中で税収の種別をマーキングし地域のプランと合っているか検証されているのか。地域を残そうとしたときに、そこから生まれる税収がどのような種類のものか。外に働きに出ている人が多いとか、観光で食べている、といったことが考えられた上で、大長地区の将来像が描かれているか。

(事務局)

地域ごとの税収の種別との検証は行っていない。市全体の中で、産業の就業者数の推移や、居住人口の推移から、この区域を定めている。

(市民)

金谷の公民館や川根の温泉を中心施設にするのはわかる。そこの周りに人が集まってお金が落ちて、税収になって市が運営されている。大長地・伊久身地域はなにを売りにして盛り上げていくのか。自然の豊かさや観光で盛り上げてお金を落としてもらうのか、ベッドタウンとして会社員を誘致することなのか、地域の中心の産業があるのか。

(事務局)

各地域が独立して維持するとは考えていない。市全体が成り立っていけるように考えている。市全体として企業誘致する場所を考えている。地域別で分けているのは、すでに住んでいらっしゃる方がいるので、何でもかんでも中心市街地やどこかに移り住んでください、ということではありません。今住んでいる場所に今後も住み続けてもらうためにも、それぞれの地区に拠点を設定し、その拠点の周りに都市機能と呼ばれるような商業施設や医療、福祉等を誘導させることによって、その周りに集落も含めて住み続けられるというように考えています。

(市民)

コンパクトシティのイメージがわからない。小中学校を統廃合するイメージなのか。お金がかかるからコンパクトにしようというようなことか。具体的に教えてほしい。

(事務局)

大前提として、計画を立てる際に課題となっているのは、人口減少、高齢化の進行、子どもがいなくなること。今までのように、市が成長するために都市を拡大するのは難しく、そのまちや集落を維持していく必要がある。その時に、今までと同じくらい人口密度を確保し、最低限生活に必要なコンビニや診療所等があって、その拠点の人とその周辺の人でも生活ができる場所を作って維持していこうと考えている。維持するだけでなく、人を呼んだり、人に訪れてもらったり、働く場所を確保したりする必要もあります。確実に人口は減っていく中で、どう維持するかを考えると、いくつかの拠点にそういう機能を置いておかないと、人がいなくなってしまう。そうならないように拠点をいくつか作ろうというのが都市計画の考え方である。公共施設が多くある中で、使わなくなったものは税収も減るため整理しなければならない。学校は、適正な教育をするためには、ある程度の生徒数が必要になる。概要版にある基本理念のように、「成長・拡大」ではなく「縮充」小さく縮まるけど中身は充実させ、これからも持続可能なまちづくりをしていきたいと考えています。行政だけではできないため、「連携・協働」を入れさせていただいた。

(市民)

大長地域の集落拠点は北部ふれあいセンターで、ここを中心にして商業施設等を集積して生活しやすい環境を作るとのことだと思う。伊太に住んでいるが、正直この地区に生活拠点があってもあまり利便性はない。大長地区とくくらず、もう少し細かく地区を分けて話を進めた方が良いのではないかな。

(事務局)

伊太地区は土地柄的にも区分けは大長地域となるが、中心市街地に近いところもあり、都市計画的にも一部は用途地域となるところもある。このため、生活に必要な都市機能は中心地域を活用してもらえば良いが、コミュニティを考えた時には、地域拠点を活用することもあるのではないのでしょうか。

(市民)

大長地区は、それぞれ特色があり、特徴が違う。神座は、県道を活かしたむらづくり、流通を活かした観点ができる。相賀は、大井川の支流沿いとなり条件が違う。大長地区についてどうかを話すのは難しいと思う。神座なら神座だけで話すと思っていた。あまりにも条件

が違うので、伊久身とは違うと思う。6つの地域に分けて作ったのはわかるが、それぞれの特色を活かした計画づくりができないかと思った。

(事務局)

大長地域のくくりについては、伊太地域の人に話を聞いたら北部ふれあいセンターに来ることがあるということだったが、生活拠点となることとは少し違うと思う。用途地域がかかっている場所は、中心地域のいろいろな施策を活用してもらうことになる。神座と相賀は、そこに拠点を置くから他はなし、ということではない。北部の地域を残して活用していくことになるので、各地域でこの施設を使って他は使わないとか、この地域しかやらないということではない。なにかをこの場所に作るとか持ってくるということではなく、この場所に誘導する施策を展開していきたいということを示している。

(3) グループワーク「わたしの考える“大長地域の未来”」

- ・地域構想の内容を踏まえ、グループごとに“地域の未来”がどうなって欲しいかを話し合い、地域のまちづくりへの期待や、地域の未来像のイメージを『未来カード』に記入した。
- ・地域別構想原案について、追加意見があれば『ご意見カード』に記入した。

《グループワークの結果（『未来カード』への記載内容）》

グループ	意見概要【わたしの考える“地域の未来”とは】
Aグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・大長地区で考えると道路整備、それがあって地区のダメな所が消えて、良い方法に行くのでは？ ・各地域の話し合いから！（伊太・相賀・神座・伊久美）大長地区の未来を考えたい ・ゆったりくらせる良い田舎 ・大長地域は人口減少してきていると同時に空き家も増えつつある。高齢者が転入してきてくらせるようにリフォームすることにより、人口減少を防げる ・道路拡張など道路整備をすれば、いろいろなところに行くのが便利となる ・各地域の話し合い ・道路を走りやすく ・これから一番多い世代と予測される「65歳～」の方が、第2の生活（子育ても終わって孫生まれた位の人々）を田舎暮らしを希望されている場合の地域として、大長地区を選んでもらうような努力をしていく。現在の課題を出して、対策をして大きく魅力を発信していく。
Bグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・伊久美、神座、相賀、伊太の地域特性を活かしたまちづくり ・外部から集客し、活性化をねらう ・あわよくば、定住 ・終活の地とする?!など ・学校跡地を利用した、地域独自の拠点を作る ・道路を広く 住み良い地域 ・道路、交通網の整備が重要だと思います。自家用車以外でも生活しやすい環境を！ ・人口の増加なくして、都市（地域）計画もなし ・子供の笑い声の聞こえる地域 ・若者が定住する地域にしたいなあ、と考える

グループ	意見概要【わたしの考える“地域の未来”とは】
Cグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・大人から子どもまで、誰でも生活しやすい島田市にして欲しい ・ライフラインの充実 ・通行の便を良くして、住みたい便利な地域！ ・子どもが大人になっても、戻って住みたい所になる ・にぎわい拠点と神座地区を結ぶ、両面通行可能な道路（橋）をもとにした地域づくり（相賀・神座）をする ・廃校を利用した福祉拠点づくり ・高齢化に対応したデマンド運行の推進（相賀地区）
Dグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・住みたいと思える魅力のある地域 ・車がなくても移動ができる地域 ・同年代の人が多く集まる地域 ・住んでいる人たちが感じていることは、便利さやにぎやかさはないが「<u>住みごこの良い地区だ</u>」ということです。これは大きなこの地域の売りだと思えます。この良さを無くさないようにすることが最も大事だと思う ・集合住宅地をもうけて部落の人たちが皆で住み、1つの町をつくる ・とにかく若い人がこないと！→経済的な事をクリアすれば来るよ。もっと町をアピール（メディア） ・いなかで良い ・お茶がたくさん売れる
Eグループ	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地ゼロ ・“自立した未来”最初から誰かをあてにするのではなく、個々が主となり結果行政を巻き込んでいく ・×老人世帯、荒れた茶畑、空家 <ul style="list-style-type: none"> ⇔ ○人が訪れる地域、魅力発信、良好な近所付き合い ・住民の負担の少ない、住みやすい地域 ・特に高齢者が自立できる（雇用がある） ・地域のみかん、茶等農産物の販売拡大のため、人の育成と農地集約を進める ・地域の農産物を全国へ

■ 『ご意見カード』 への記載内容

まちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・計画は 2040 年と約 20 年後を予定していますが、行政はちゃんと世代が変わってもやり続けますか？ ・“都市づくり” の言い方があいまいすぎませんか？ ・島田駅周辺がもっと活発になるような商業施設は建てないのでしょうか？ ・北中、各小学校の跡地はどうなるのですか？ ・伊太団地のアパート（市営住宅）や空き家は具体的にどうなっていくの？
交通環境	<ul style="list-style-type: none"> ・大長地区は森林（山）地が多いが、空間を輸送できる機器が開発されれば、もっと山間地域も“安心した居住地”としてのレベルが上がると思う。将来に希望のもてる思い切った島田づくりのイメージを作ってください（がんばってくれていると思うが）
施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・伊太小跡地は、ぜひ防災公園として都市計画する 第一種住専
人口減少対策	<ul style="list-style-type: none"> ・人口の減少をしていく中で大切なのは、やはり新しい人口のとりこみだと思えます。企業誘致を島田市全体での積極的とりこみとし、まずは人口を減らさない事につとめる事が大切かと考えます。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・友人が神座みかんを使ったみかんサワーをやってみたいと言った事があります。受け身だけでなく、まずやってみるのも大事じゃないですか？